

強度行動障害について

強度行動障害の方を対象にした施設である「砂川厚生福祉センター」の見学会で学んだことを参考にして作成致しました。

強度行動障害とは・・・

以下のような行動が著しい頻度で起こり、特別な支援を必要としている状態のことを言います。

自らの健康を損ねる行動



激しい自傷



危険な飛び出し



異食

周囲の人の暮らしに影響を及ぼす行動



何時間も続く大泣き



他害



物を壊す

入所者の暮らし(いぶきパンフレット 概要編より写真を引用)

住環境



入所者の居住スペース。布団や机、ダンスなどが置かれていて、それぞれの部屋で利用者に合ったレイアウトとなっている。

好きなことを安心してできる場所。

課題スペース



空間の構造化として、活動ごとに対応した場所を1対1で設定している。

左側：作業スペース。棚の中に、課題の籠があり、自立して課題に取り組む。机の横には終わった課題を入れる箱がある。

右側：おやつを食べるスペース。

強度行動障害の原因

強度行動障害は自閉症と知的障害との関連があり、自閉症と知的障害がともに中程度以上の場合になりやすいといわれています。そして、以下の四つの特性と周囲の環境がうまく合わないことが強度行動障害につながっていくといわれています。

コミュニケーションの
苦手さ

衝動性

強いこだわり

感覚過敏

入所者の中にも、
高等部までは机で作業ができていましたが、
卒業後の環境が合わなかったため強度行動障害につながった方もおられるとのことでした。
以下に在学中にしておきたいことを2つご紹介します。

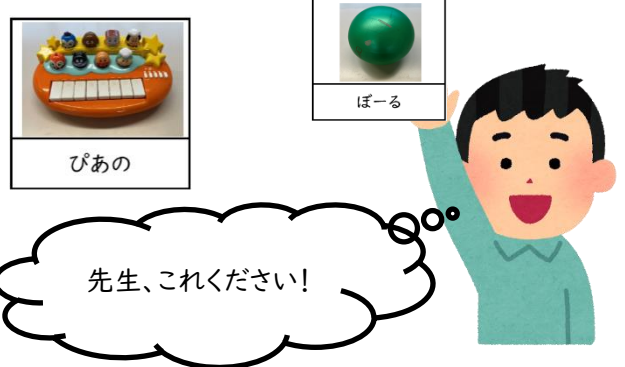
在学中にしておきたいこと

コミュニケーション方法の獲得

1対1の環境で名詞や動詞などを教え、指示の理解を促す。



欲しいおもちゃなどを絵カードにし、要求を促す。



活動の構造化

活動の流れを具体的に示す



一目で分かる活動の流れ

じゅんばんを かきましょう

ばん

ばん

ばん

1ばん、べんきょう

2ばん、あそび

プリント課題などで順番のイメージができると、口頭指示での促しも理解しやすくなる。